

【泉大津市】

校務DX計画

1 校務DX化の現状及び成果

本市では、令和元年9月から統合型校務支援システムを導入し、校務の効率化及び教職員の負担軽減を図ってきた。しかし、校務系ネットワークはオンプレミス型で構築していたため、令和5年度に校務系ネットワークをクラウドへ移行するとともに、教職員のアカウントにおける業務用個人メールの利用を開始した。また、統合型校務支援システムについても、更新のタイミングに合わせてクラウド化を行ったことで、学校外においても校務支援システムを使用できる環境を整備したところである。

2 校務DX化の課題

現状及び成果に対し、以下の課題が挙げられる。

(1) 業務のあり方の見直しや削減

給食の食数変更など連絡手段にFAXを使用することや、事務の手引きを根拠に押印を求める書類があるなど、デジタル化が進んでいない業務においては、教育委員会全体で業務のあり方を見直す必要がある。

(2) 校務支援システムの運用について

現在、セキュリティ上の観点から学習系と校務系のネットワークは分離し、校務支援システムは、学校内においては校務系ネットワークが整備されている職員室でのみ使用している。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」では、適切な勤務時間管理等を前提とした校務のロケーションフリー化により、働き方の選択肢を増やし、安全かつ働きやすい環境の実現が提言されていることから、適切にセキュリティを確保しながら、校務支援システムの運用方法を検討する必要がある。

3 校務DX化の今後の計画

各課題に基づき、次のとおり検討を進める。

(1) FAXの原則廃止

学校と教育委員会とのやり取りについては、教職員には個人用のメールアドレスを付与しているため、電子メールや校務支援システム内のメール機能の利用を推進する。

外部事業者等とのFAX送受信については、電子メールの送受信が可能か精査し、電子メールによる通信への移行を推進する。

(2) 押印の原則廃止

報告や使用願などの各種書類について、押印の必要性を再検討し、押印の廃止を推進する。

(3) 生成AIの活用

生成AIはメリット、デメリットの両方が存在しているため、現時点で教職員の利活用を義務付けするものではないが、業務の効率化・高度化に活用できる点を踏まえ、学校現場での導入を実証的に行う。

(4) 校務用パソコンの更新に向けた検討

校務支援システムの利用にあたり、多段階認証によるセキュリティ対策を行っているが、ゼロトラストの考え方の基、ID・パスワード等の記憶認証に生体認証を加えた多要素認証を導入する。